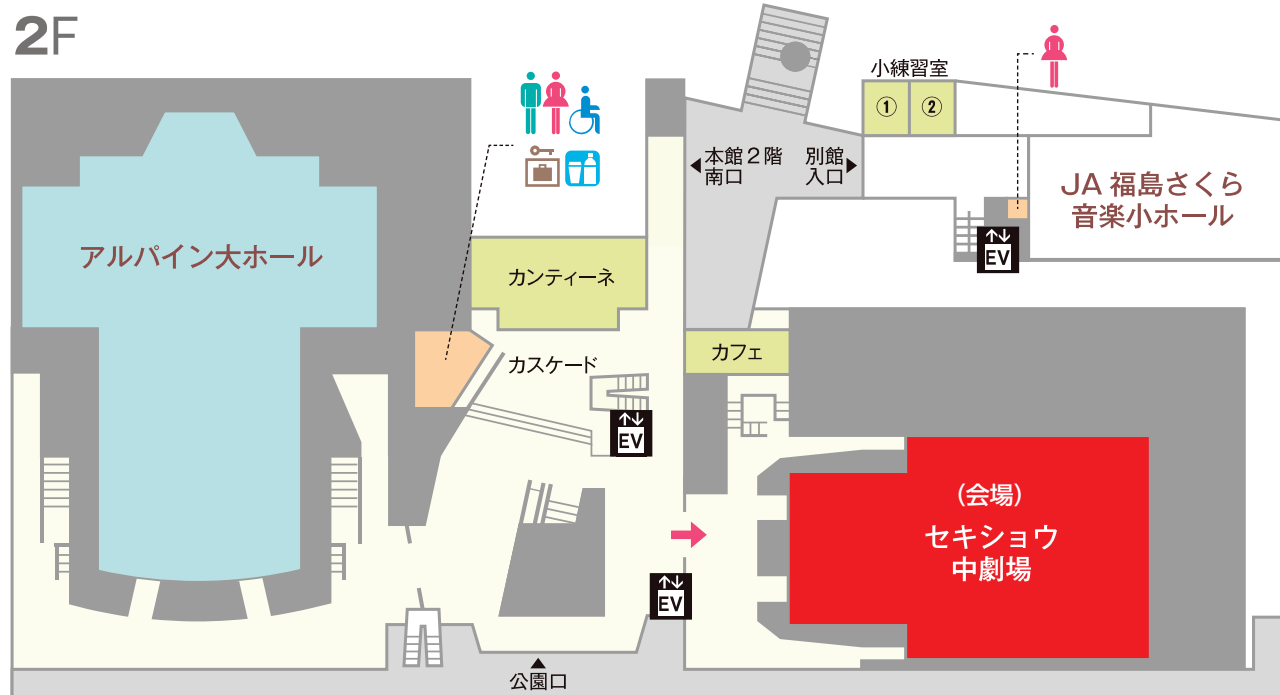


ふるさとの祭り 2026 in いわき

「ふるさとの祭り」は、地域の宝である民俗芸能の継承や人々の絆の再生を図るため、2012年より県内各地で開催しており、今年は「いわき芸術文化交流館アリオス」が会場となります。県内各地で受け継がれ守られている様々な神楽、踊、舞などが一挙に披露される、年1回の貴重な機会となっておりますので、是非会場にお越しいただきお楽しみください。



過去の映像はこちら



【ご来場者特典】福島県政150周年記念グッズをプレゼント ※配布数に限りがあります

体験コーナー〈芸能に触れよう！〉

民俗芸能の体験

民俗芸能を楽しく体験いただけるコーナーを設けます。披露を観覧するだけでなく、実際に体験することができます。当日の詳細は随時HPに掲載しますのでご確認ください。

※R7実施時の様子

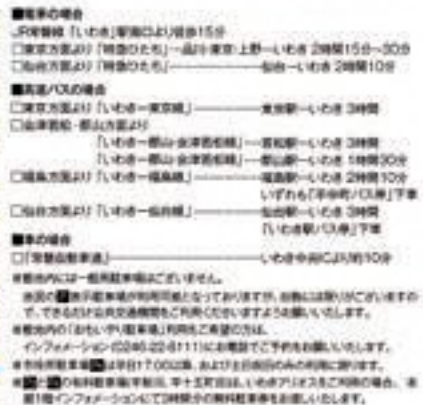


双葉だるま絵付け体験 先着50名(各日)

双葉だるまとは、福島県双葉町で作られている伝統的な縁起物のだるまです。江戸時代から続く「双葉町ダルマ市」の伝統を受け継ぎ、東日本大震災と原子力災害を乗り越える「復興のシンボル」として町民に親しまれています。



会場 いわき芸術文化交流館アリオス
いわき市平三崎1-6



伝統がつなぐ、
「ふるさと」の誇りと未来

2026年(令和8年)

11/7 土 11/8 日

14:00~17:00

10:00~17:00

※終了時刻は変更になる場合があります。

会場

**いわき芸術文化交流館アリオス
セキショウ中劇場**

いわき市平三崎1-6



ふるさとの祭り
in いわき
2026

入場無料

※地震等の災害が発生した場合は、主催側の判断によりスケジュールを変更したりイベントを中止する場合があります。

お問い合わせ

ふるさとの祭り実行委員会(福島県文化振興課内) TEL.024-521-7154 FAX.024-521-5677

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11055a/furusatonomatsuri.html> メール bunka@pref.fukushima.lg.jp

当日のお問い合わせ〈運営事務局 TEL.080-6052-8639〉



主催 / 福島県、ふるさとの祭り実行委員会

ふるさとの祭り 福島

ステージプログラム

※都合により出演団体及び出演日時が変更になる場合があります。

7^土 14:00～17:00
13:30開場

14:00～ 石井の七福神
14:25 鈴石東町共楽会

14:30～ 福田の十二神楽
14:55 福田十二神楽保存会

15:00～ 会津大念仏踊
15:25 会津大念仏摂取講保存会

15:30～ 川添の神楽
15:55 浪江町川添芸能保存会

16:00～ 鹿島下町の子ども手踊り
16:25 下町子供手踊り保存会

16:30～ 下平窪のじゃんがら念仏踊り
16:55 下平窪青年会

16:55～ クロージング
17:00

8^日 10:00～17:00
9:30開場

10:00～ 絹谷の獅子舞
10:25 絹谷獅子舞保存会

10:30～ 南柚木の神楽
10:55 南柚木神楽保存会

11:00～ 前沢の女宝財踊
11:25 前沢の女宝財踊保存会

11:30～ 滝尻の棒ささら
11:55 滝尻棒ささら保存会

12:00～ 慧日寺の日光月光の舞(明神の舞)
12:25 会津磐梯巫女舞保存会

12:30～ 昼休憩
13:30

13:30～ アトラクション
13:55 いわき湯本高校フラダンス部「ヴェリナ・マハロ」

14:00～ 上ノ原のじゃんがら念仏踊り
14:25 上ノ原じゃんがら青年会

14:30～ 大倉の太々神楽
14:55 大倉太々神楽保存会

15:00～ 熊川の稚児鹿舞
15:25 熊川稚児鹿舞保存会

15:30～ 相馬流れ山踊
15:55 飯舘村相馬流山踊保存会

16:00～ 小野の獅子舞
16:25 小野大倉獅子舞保存会

16:30～ 大國魂神社の大和舞
16:55 大國魂神社大和舞伝承会

16:55～ クロージング
17:00

11/ 7^土 14:00～17:00
※終了時刻は変更になる場合があります。

いしいのしちふくじん
石井の七福神



鈴石東町共楽会

二本松市の旧石井村の鈴石町・錦町・トロミ地区に伝承されている芸能で、初春に家々を訪れその年の稲作や養蚕が豊穡であることを祈る。七福神は田植踊の前に演じる芸能で、はじめに先導役の稲荷が登場し、続いて毘沙門天、弁財天、布袋、福祿寿、寿老人、恵比寿、大黒天の七福神が次々と舞い込み寿ぐ。道化役(ヒョットコ面)2人がおどけたしぐさで注連縄と蚕のまぶし(蚕が繭を作るときのもの)を編み、稲作、養蚕が順調に進行すること、豊穡を祈願する。(国指定重要無形民俗文化財)

ふくだのじゅうにかぐら
福田の十二神楽



福田十二神楽保存会

福田の十二神楽は、舞も囃子もすべて子供が演ずるという、神楽としては珍しい特色がある。この神楽は、慶応元年(1865年)頃に宮城県伊具郡丸森町から伝えられ、もとは大人たちが演じていたが、福田ではのちに少年に伝えたとされている。少子化の影響などで令和元年に一度中断したものの、令和3年から新地町立福田小学校の授業の取り組みをきっかけに、それまで長男の小学生だけで続けていた継承に、女子の参加も受け入れ令和4年に復活を遂げた。(県指定重要無形民俗文化財)

あいづだいねんぶつおどり
会津大念仏踊



会津大念仏摂取講保存会

会津大念仏(踊)は、かつて会津全域の28か所に伝えられており、少なくとも江戸時代初期から行われている福島県を代表する民俗芸能である。かつては24組の摂取講があったが、現在では3組となっており、その継承も年々難しくなっている中で、今あることの祭りへの出演を契機に合同チームを立ち上げ、今後の継承に連携を深める。踊りは位置の移動のない素朴な振りであるが、数名から十数名加わる太鼓は、先端に白毛を付けた撥を両手に持ち、太鼓の片面と両面を曲打ち風に打つ。(県指定重要無形民俗文化財)

かわぞえのかぐら
川添の神楽



浪江町川添芸能保存会

旧相馬中村藩には約180の地区に獅子神楽が伝えられ、正月には年始の畝いとして、また地区の祭りには五穀の豊穡を祈って行われてきた。この神楽は明治40年頃に、修行を積んだ地元の神楽の名人が村人に披露したのが始まりとされ、やはり正月に家ごとに舞い込んできた。浪江町は、東日本大震災と原発事故により全町民が避難、保存会の活動も一時途絶えたが平成27年に活動を再開し、県内各地にある町民の避難先となった仮設住宅を巡って神楽を披露するなどの活動を続け、今も郷土の民俗芸能を守り続けている。

かしましもまちのこどもおどり
鹿島下町の子ども手踊り



下町子供手踊り保存会

この手踊りは、南相馬市鹿島区内の鹿島御子神社・男山八幡神社・日吉神社等で12年毎に行われるお浜下り神事に奉納する踊りとして、江戸時代から伝承されている。曲目は、相馬地方の民謡のほか伊勢音頭・八木節など全国各地に及んでいることが特徴。保存会は、昭和21年(1946年)に発足し、お浜下りの他、各神社の例祭、各種芸能発表会や地域イベントなどにも取り組みながら、保存・伝承に努めている。このような子ども手踊りは、江戸時代には「ややこ踊」とい、これもその流れをくむ貴重な芸能である。

しもひらくぼのじゃんがらねんぶつおどり
下平窪のじゃんがら念仏踊り



下平窪青年会

いわき市内でかつては100か所ほどで行われ、北は双葉郡大熊町、西は田村郡小野町と平田村、南は茨城県の北部にまで及んでいる。多くは月遅れのお盆に、主として新盆のある家をめぐって庭先で踊る。じゃんがら念仏踊りはどの組でも、寛永14年(1637)にいわき市四倉町に生まれ、東京芝の増上寺の大僧正にまでなった祐天上人が教え広めたと伝えられている。念仏踊の流布した時期からみて、何らかの奨励はあったとしても、座り念仏から立ち念仏踊を経て、次第に風流化したものと思われる。

出演団体紹介

11/ 8^日 10:00～17:00
※終了時刻は変更になる場合があります。

きぬやのししまい
絹谷の獅子舞



絹谷獅子舞保存会

伝来の時期は不明であるが、地元に残る寛延4年(1751)の古文書に獅子舞の記載があり、腰太鼓の内部には文政九年七月吉日との記載がある。毎年9月最終土日の2日間、鎮守・諏訪神社の秋の祭に五穀豊穡・家内安全などを祈って舞っている。県内でも最も古風な芸態の獅子舞のひとつである。(県指定重要無形民俗文化財)

みなみゆぬきのかぐら
南柚木の神楽



南柚木神楽保存会

昭和23年まで用いていた獅子頭には宝暦3年(1753)の墨書銘の銘があり、年代が明らかなものでは本県で最も古い。相馬地方を代表する獅子神楽で、演目は打ち込み・幕舞・幣束舞・鈴舞・散らの5種で、幣束舞にうたわれる歌詞も、正確に伝えられている。江戸時代には神職の鈴木家を中心とする8軒の杜家によって継承されていたことから伝承は確かであり、この地方にはここから習い受けたところが多く、相馬の神楽の祖といわれている。

まえさわのおんなほうさいおどり
前沢の女宝財踊



前沢の女宝財踊保存会

宝財踊は、南北朝の乱の際に、霊山から北畠氏の家臣が旅芸人に変装して落ち延びた姿を後に踊りにしたものといわれ、南相馬市鹿島区の江垂日吉神社の12年に1度の浜下りに子どもたちにより行われている。これを昭和2年に県立相馬農業高校が神社の許しを得て踊り手を3人増やすなどして運動会で披露し大評判となったのをきっかけに、各地に広まり踊られるようになった。踊り手がすべて女性であることが「女宝財踊」といわれている。

たきじりのぼうささら
滝尻の棒ささら



滝尻棒ささら保存会

「棒」は棒術、「ささら」は摺りささらのこと。ささらは獅子舞に決まって用いられることから獅子舞を指すようになった。塚原卜伝(ぼくでん)の高弟(こうてい)が当地に移り住んだといわれることから、棒術を大切にしており、伝承も確かである。太鼓に天明4年(1784)の銘があるので、これ以前の伝来と思われる。

えにちじのにつこうがっのまい(みょうじんのまい)
慧日寺の日光月光の舞(明神の舞)



会津磐梯巫女舞保存会

慧日寺は平安初期に徳一大師が創建したと伝えられている古刹で、広大な境内は国の史跡に指定されている。当寺には少なくとも中世以前から、県内唯一の延年である「日光月光の舞」が伝承されていたが、幕末で途絶えた。しかし、一部ながら舞の足どりの記録や時の会津藩主松平容敬のスケッチが残っていたことから、平成29年に磐梯町が専門家による指導・助言を得て再興し、現在は当保存会により継承されている。

うえのはらのじゃんがらねんぶつおどり
上ノ原のじゃんがら念仏踊り



上ノ原じゃんがら青年会

じゃんがら念仏踊りは、北は大熊町から南は茨城県北部まで約100か所に伝来しているが、いわき市小川町はとりわけ盛んで、児童から大人まで何組もの組があり、この地方だけで大会も開催していた。それだけに伝承は確かであり、じゃんがら念仏踊りの典型といつてよい。今回の出演団体は青年なので、お手本的な踊りを拝見できる。

おおくらのだいだいかぐら
大倉の太々神楽



大倉太々神楽保存会

幕末から明治にかけて大倉神社の神職國分大隅(明治36年没)が田村地方の神楽を集めたもので、一般に大隅流といわれている。この神楽は田村地方のみならず、安達地方にまで伝授しており、その功績はさきわめて大きい。演目は採物舞12座と神楽能24座、合わせて36座ある。各舞とも「平舞」と「かかり」からなり、今なおこれを厳格に守っている。保存会員は練習熱心で、伝承は確かである。(県指定重要無形民俗文化財)

くまがわのちごししまい
熊川の稚児鹿舞



熊川稚児鹿舞保存会

踊り手は児童4人で、鹿舞と書いてシシマイといい、獅子が4人または5人による舞は、旧相馬中村藩内だけに伝来し、これはその典型である。江戸時代後期の大飢饉では疫病が蔓延し、地区内でもさまざまな苦難に陥った。そのために鎮守の諏訪神社に鹿舞を奉納し、地区の安泰と五穀豊穡・家内安全を祈ったことに始まるといわれている。

そうまながれやまおどり
相馬流れ山踊



飯舘村相馬流山踊保存会

民謡「相馬流れ山」は、奥州相馬氏初代の相馬重胤が、元享3年(1323)氏神の妙見とともに下総から現在の相馬の地に移った。その途上、これまでいた郷里を思い起こして歌い始めた望郷の歌がこの歌と言われている。しかし、実際には江戸時代からこの地方で歌われていた田植歌が明治になって取り入れられ、踊りがついたと思われる。福島県が誇る名歌のひとつである。

おののししまい
小野の獅子舞



小野大倉獅子舞保存会

小野町の大倉地区が継承している羯鼓獅子舞で、獅子9名とささら摺り2名による。県内の多くは3匹によるもので、11人というのは当地だけで珍しい。毎年9月下旬の小野新町の塩釜神社の祭りに、境内とお旅所で披露される。この獅子頭は宮城県塩竈市の鹽竈神社から受けた角隠で作ったことに始まるという伝えがあり、事実、宮城県の獅子舞とわずかながら類似している。大倉地区と塩釜神社はかなり離れているが、これまで中断することなく継続してきたことは特筆すべきことである。(県指定重要無形民俗文化財)

おおくにたまじんじやのやまとまい
大國魂神社の大和舞



大國魂神社大和舞伝承会

大國魂神社に伝わる出雲系神楽「大和舞」の伝来時期については、はっきりとしていないが、磐城平藩主・内藤義孝公の兄である政栄公(俳号 露沾)が詠んだ和歌と俳語を書き留めた書き物(裏書に「享保十二巳歳九月八日(1725)」とある)に、「大和舞」と思われる記載があり、その頃にはすでに奉納されていたようである。昭和28年頃から一時中断したが、昭和60年に約30年振りに奉納を再開し、例大祭と初音祭で披露している。

アトラクション
いわき湯本高校フラダンス部



ヴェリナ・マハロ

いわき湯本高校フラダンス部「Welina Mahalo(ウェリナ・マハロ)」は、「愛をこめてありがとう」という意味をチーム名に掲げ、仲間との絆を大切にしながら活動するフラダンス部。これまで「フラガールズ甲子園」で最優秀賞を受賞するなど、全国の舞台でも活躍。2026年の第14回大会でも最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞。高校生たちが心を込めて披露する、華やかなフラダンスが魅力。